

川崎市青少年科学館収蔵の川崎北部の蝶・ホタル未発表標本について

Unreported specimens of butterflies and fireflies from northern Kawasaki deposited in the Kawasaki Municipal Science Museum, with notes on their past habitats

鎌倉正人*

Masato Hinakura

*特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班

Insects Research Group, Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

はじめに

筆者は、川崎市青少年科学館改築後の標本整理に際して、蝶類をはじめとする川崎市北部産の未発表寄贈標本が保管されていることを見出した。これらの大部分は現在の麻生区百合ヶ丘で1970年代初頭に得られたものであるが、採集場所一帯は高度経済成長期以来住宅地として発展し、現在まとまった緑がわずかになっており、昆虫の記録も乏しい。雑木林が広く残されている地域には残っている種類も多いが、現在の多摩丘陵においてほぼ絶滅した種も含まれる貴重な資料であり、過去の川崎の自然を語るものとして、ここに報告する。

調査方法

標本ラベルからデータを読みとり、記録を分類順に配列した（普通種も含めて一通り紹介）。標本箱には他県の蝶も収蔵されていたが、今回は川崎北部の記録のみとりあげた。また、当時の国土地理院2万5千分の1地形図を調査した。それらをもとに、現在の川崎市麻生区で見られる種類と比較して、ファウナや生息環境について考察を加えた。主な寄贈者・採集者である坂水健祐氏には、当時の状況をヒアリングするに至っていない。

調査結果



まず、標本が得られた時代の現地周辺の地図を示し、そこから読み取れることを述べる。

現在の麻生区の中心街である新百合ヶ丘駅周辺は、自然地形をとどめた丘陵で、造成も全く始まっていない。小田急小田原線は現在より低い場所、区役所の下あたりの道路沿いを走っており、多摩線はまだない。現在の軌道の位置を点線で示した。

一方、郊外の団地のパイオニア的存在である百合ヶ丘の開発は、かなり早く（ここだけ字名でなく丁目表示）、弘法松を越えて、現在の上麻生2丁目あたりまで住宅地が伸びているのがわかる。消えた古い字名も多い。

図1) 百合ヶ丘周辺の土地利用状況 (1970年発行の国土地理院2万5千分の1地形図・溝口を使用)。

続いて、百合ヶ丘周辺の蝶類42種の記録を紹介する。ラベルには KENSUKE SAKAMIZU COLLECTION と表記されており、採集者とみなしてよいと思われる。資料の大多数を占める百合ヶ丘（現在の川崎市麻生区；当時は多摩区の一部であった；駅名には“ヶ”が入り、町名には入らないが、ラベルは前者であった）は、省スペース上地名無表記とし、他の地名はその都度記した。高石は現在の麻生区、読売ランドは現在の多摩区、向ヶ丘はどの範疇を指すか明瞭ではないが、町名としては現在の菅生・初山など主に現在の宮前区の地域が該当する（川崎市，1991）。無印の種は現代の麻生区においても多産地に行けば比較的確実に見られる種、▲は稀な種、●は近年記録がない種である。無印でも退行の著しいものはコメントを付した。学名や配列は、日本産蝶類標準図鑑（白水，2006）に従った。

アゲハチョウ科 Papilionidae

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer)

1♂, 18-V-1970.

ナミアゲハ *Papilio xuthus xuthus* Linnaeus

1♂, 12-VII-1970.

キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder

1♂, 23-VII-1970.

クロアゲハ *Papilio protenor demetrius* Stoll

1♂, 12-VII-1970.

カラスアゲハ *Papilio dehaanii dehaanii* C. et R. Felder

1♂, 23-VII-1970.

シロチョウ科 Pieridae

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus scolymus* Butler

1♂ (裏展翅), 30-IV-1970; 1♀, 29-IV-1970; 1♀, 2-V-1970. 1♂ (破損), 高石, 24-IV-1971.

モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* Boisduval

1♂, 24-IV-1970; 1♂, 29-IV-1970; 1♂, 30-IV-1970.

スジグロシロチョウ *Pieris melete melete* Ménétrières, 1857

1♂1♀, 10-VI-1970.

シジミチョウ科 Lycaenidae

ゴイシジミ *Taraka hamada hamada* (H. Druce) ▲

1♂1♀, 向ヶ丘, 21-V-1970.

ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri pryeri* (Murray) ▲

1♂, 5-VI-1970; 1♂, 7-VI-1970.

アカシジミ *Japonica lutea lutea* (Hewitson)

1♀, 7-VI-1970; 1♂, 9-VI-1970.

ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia* (Bremer)

1♂, 20-VI-1970; 1♀, 23-VI-1970.

オオミドリシジミ *Favonius orientalis orientalis* (Murray) ▲

1♂, 7-VI-1970; 1♀, 9-VI-1970.

トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer) ▲

1♂, 向ヶ丘, 21-V-1970.

ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura)

1♀ (春型), 18-V-1970; 1♂ (夏型), 23-V-1970; 1♀ (夏型・破損), 3-VII-1970.

ヤマトシジミ *Zizeeria maha argia* (Ménétrières)

1♂, 向ヶ丘, 21-V-1970. 2♀, 読売ランド, 8-X-1970.

ツバメシジミ *Everes argiades argiades* (Pallas)

1♂, 29-IV-1970.

ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* (de l'Orza)

1♂, 30-IV-1970; 1♀ (破損), 9-V-1970.

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (Fabricius)

1♀, 5-IX-1970.

タテハチョウ科 Nymphaliidae

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui cardui* (Linnaeus)

2♂, 5-IX-1970; 1♂ (裏展翅), 8-X-1970.

アカタテハ *Vanessa indica indica* (Herbst)

1♂, 29-VIII-1970.

キタテハ *Polygonia c-aureum c-aureum* (Linnaeus)

1♂ (夏型), 4-VI-1970; 1♂ (夏型), 29-VI-1970; 2♀ (秋型・片方裏展翅), 8-X-1970.

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas japonica* (Stichel) ▲

1♀, 11-VI-1970.

ルリタテハ *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold)

1♀, 7-VII-1970; 1♂, 読売ランド, 8-X-1971.

クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene midas* (Butler) ●

1♀, 9-VII-1970 (図2).

スミナガシ *Dichorragia nesimachus nesiotetes* Fruhstorfer ▲

1♂ (春型), 18-V-1970; 1♀ (夏型), 20-VII-1970.

コミスジ *Neptis sappho intermedia* W. B. Pryer

1♂, 9-V-1970.

イチモンジチョウ *Ladoga camilla japonica* (Ménétrières)

1♂, 25-V-1970; 1♀, 7-VI-1970; 1♂ (裏展翅), 3-VI-1970.

アサマイチモンジ *Ladoga glorifica* (Fruhstorfer) ●

1♂, 23-VII-1970; 1♀, 9-IX-1970 (図3).

ゴマダラチョウ *Hestina japonica* (C. et R. Felder)

1♂, 7-VI-1970; 1♀, 30-V-1970.

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus argus* Butler

1♂, 18-V-1970; 1♂, 19-V-1970.

ヒメジャノメ *Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer

1♂, 4-VI-1970; 1♀, 3-VII-1970.

ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctata* (Motschulsky)

1♂, 9-VII-1970; 1♀, 23-VII-1970.

ススキ草地に生息するが、現在、新百合ヶ丘駅近辺では確認できず、小田急多摩線沿線の住宅地である白鳥および栗木以北には残存する。

クロヒカゲ *Lethe diana diana* (Butler)

1♂, 29-VII-1970; 1♀, 18-V-1970.

ヒカゲチョウ *Lethe sicelis* (Hewitson)

1♂, 7-VI-1970.

サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii* (Ménétrières)

1♂, 18-V-1970; 1♂, 18-VIII-1970.

セセリチョウ科 Hesperidae

アオバセセリ *Choaspes benjaminii japonica* (Murray) ▲

1♂, 9-V-1970.

ダイミョウセセリ *Daimio tethys* (Ménétrières)

1♂1♀, 19-V-1970.

コチャバネセセリ *Thoressa varia* (Murray)

1♀ (胴体欠損), 27-V-1970.

キマダラセセリ *Potanthus flavus flavus* (Murray)

1♂, 3-VII-1970; 1♂, 25-VIII-1970.

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida pellucida* (Murray)

2♂, 29-VI-1970.

かつては広く生息していたようだが (渋谷, 1971), 川崎北部周辺で現在確実に見られるのは, 自然度の高い谷戸が残っている黒川や近隣の町田市三輪町などに限られている (相模の蝶を語る会, 2011).

イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata* (Bremer et Grey)
1♂, 31-V-1970.

未発表産地の標本として, ホタル (甲虫目ホタル科)もまとめて見出されたので, この場を借りて記録しておきたい. 学名や配列は, 平野 (2004) に従った.

ゲンジボタル *Luciola cruciata* Motschulsky

1♂, 白山, VI-1983 (日付不明), M. Sawaki.

M. Sawaki は採集者と推定され, 白山という地名は, 現在の麻生区白山と考えられる.

1♂, 高津区上作延 (東高根森林公園), 14-VI-1985 (採集者不明).

東高根森林公園自体は, 宮前区神木本町に属しており, 表現から公園の隣接地の可能性もある. 現在は宅地化に加えて霊園開発も進み, 地形が変化している.

ヘイケボタル *Luciola lateralis* Motschulsky

3♂, 多摩区南生田, 28-VII-1985 (採集者不明).

スジグロボタル *Pristolytus sagulatus sagulatus* Gorham

1♂, 多摩区枳形, 26-V-1991, 鎌倉正人採集.

生田緑地に隣接する谷戸で筆者がかつて見つけたもので, 当時の環境を語る資料として, 青少年科学館に収めていたものをこの場を借りて報告しておく. 他の個体は見いだせなかったが, 多数のヒゲナガハナノミが生息していた. ホタルの里の谷戸から見える, マンションが建っている場所であり, 現在当時の湿地環境は存在しない.

考察

残されている蝶類の標本には, シロチョウ科の黄色種など普通種に欠けもあるが, 当時の川崎北部で記録されるかなりの種が収録され, 都市化の進行した現在は見られなくなっている種が多いので, 貴重なものである. しかも, 1年程度の間, 無駄なく広く収集した印象を受ける. 特に, オオミドリシジミをはじめとした平地性ゼフィルス類4種や, 樹林性のタテハチョウ科であるヒオドシチョウ・スミナガシ, 現代の川崎では生田緑地以外に確実な観察ポイントは見出しがたいアオバセセリなどが採れていたことは, 百合ヶ丘周辺に自然度の高い雑木林が残っていた証拠である. アサマイチモンジのように, 現代の神奈川県においては, 箱根丹沢周辺では生息しているものの, 多摩丘陵から消えてしまった種もある. アサマイチモンジは, 宮前区稗原・麻生区黒川の当時の記録 (渋谷, 1971) と麻生区柿生 (片平) の1969年の記録 (中山ほか 2001) が残っており, かつては広く生息していたことがうかがわれる. 同様に丘陵地ではほぼ消滅してしまった種にクモガタヒョウモンがあり, 採集日が7月上旬であることから, 秋季に遠方の山から移動してきた個体でなく, 当地に状態の良い林縁草地があり, そこで発生した可能性が高い. クモガタヒョウモンの多摩丘陵における近年の記録は, 2008年秋の町田市三輪町などわずかな確認例が知られるにすぎない (相模の蝶を語る会, 2011) が, 1930年代の麻生区柿生 (片平) では普通に生息していたという (中山ほか 2001). 一方では, クロコノマチョウやツマグロヒョウモンなどの昨今の北上種はもとより, 比較的南方系のウラギンシジミ・ムラサキシジミの標本も含まれておらず, 文献記述からも当時は少なかったのではないかと推察される (渋谷, 1971; 中山ほか 2001). このように, 過去のコレクションをひもとくことによって, 現在見られなくなった種が明らかになる反面, 現在は増えているが, 当時はいないか稀だった種も浮かび上がって来るのである.

当時は人口も疎らだったため, 地名が示す範囲は現在よりおおまかである (柿生という大字は, 広い範囲で使われていた. これは, 飛び地を除く現在の麻生区域に大凡該当するかつての村名である). 主たる採集地やこれらの蝶の発生源である百合ヶ丘という場所が現在のどのあたりにかは想像するしかないが, 地図から推測すると, 百合ヶ丘団地がある場所よりやや広い範囲, 例えば, 繁華街に近い市立公園である万福寺檜山 (ひのきやま) 公園や, 建築写真などで有名な「階段式テラスハウス・百合丘ビレッジ」のあたりの斜面も含まれるかもしれない.

ホタルの標本についても, 現在消滅した産地のものである. 多摩区南生田には1980年代までかつての谷戸田の面影を残す湿地が存在し, 「新ゆりグリーンタウン」と呼ばれる高層住宅が立ち並び, 辛うじて湧水

のある市立公園(むじなが池公園)が残されている麻生区白山には、1980年代までゲンジボタルが発生可能な細流があったことが、資料から察せられる。

これらのことから、博物館に保管された標本は時代と共に重みを増すものであり、歴史記念物としての価値を再認識させられる。関係者の心当たりがない場合でも、データの明瞭な標本は、唯一の証言者になる。ラベル表記が不完全なものや破損が若干あったこと、貴重な標本がありながら長い間存在を広く知られずにあったことは、残念でもある。

まとめ

川崎北部の都市化した地域において、現在絶滅した種を含む、未発表の蝶類やホタル類の過去の標本が、川崎市青少年科学館において見出され、それらの当時の生息環境と環境変化について推察した。加えて、過去資料の意義についてもふれた。

謝辞

蝶の標本のひらきをチェックいただいた山本 晃氏(かわさき自然調査団 昆虫班)にお礼申し上げる。

引用文献

- 川崎市日本地名研究所(編),1991.川崎の町名.348pp.日本地名研究所.
相模の蝶を語る会,2011.創立25周年記念「神奈川の蝶・データ集II」(CD-ROM)相模の蝶を語る会,相模原.
渋谷 誠,1971.川崎の蝶,71年における53種の記録.相模蝶報,(13):1-22.
白水 隆,2006.日本産蝶類標準図鑑.336pp.学習研究社,東京.
中山周平ほか,2001.おもに1930年代から1960年代に川崎市及び周辺地域で採集された昆虫類について.川崎市青少年科学館紀要,(12):89-107.
平野幸彦,2004.コウチュウ目.神奈川県昆虫誌II:335-835.神奈川県昆虫談話会,小田原.



図2) 百合ヶ丘産クモガタヒョウモン.



図3) 百合ヶ丘産アサマイチモンジ.

